

可塑状空洞充填材
エアバック工法
NETIS登録番号：(旧) KT-980055

可塑状グラウト協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保1-15-9-502 ㈱エルジー内

TEL 03-3208-8507 FAX 03-3208-8509

URL https://www.kasojo-g.com mail contact@kasojo-g.com

[可塑状グラウト協会エアバック部会 正会員] 麻生フォームクリート㈱、ショーボンド建設㈱、東興ジオテック㈱、ケミカルグラウト㈱、㈱地巧社、日本総合防水㈱、地下防水工業㈱、ライト工業㈱、日特建設㈱、新日本グラウト工業㈱、北陸エースコン㈱、㈱カーネギー産業、地建興業㈱

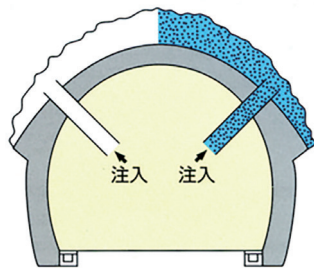
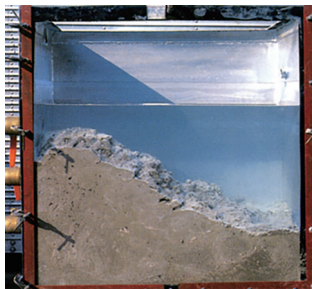


施工状況

概要

エアモルタルは優れた素材だが、水と接触するとエアと固体粒子が分離するため、グラウトとしての弱点があった。その弱点をカバーした工法が「エアバック工法」である。エアと固体粒子の分離を防止することに成功し、水に強い性質を持つため、今まで困難だった湧水箇所などでの施工が格段に向上した。

本工法は、特殊な起泡剤（AP-1）を用いたエアモルタルに可塑剤（AP-2）を加え、エアモルタルを瞬時に固結させて「エア」をグラウト内に封じ込める。この時、同時に可塑状になるため、容易に限定注入ができる二液性注入工法である。トンネルや護岸の空洞充てんに最適な工法となる。



特長

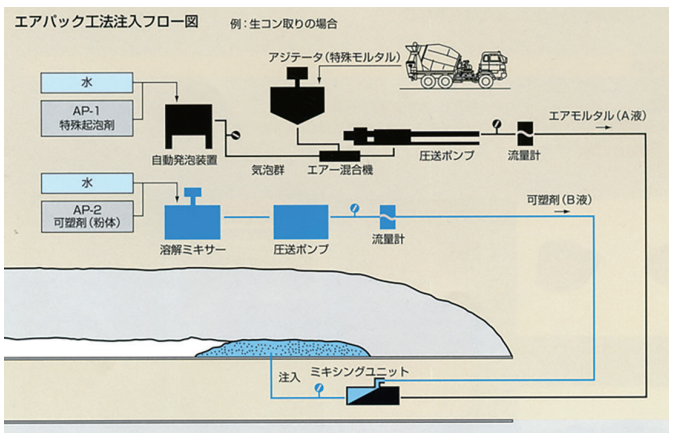
- ・**固体体積減少阻止**
グラウト内のエアを封じ込め、水に希釈されない性状になる。
- ・**固体強度の確保**
材料分離がなく、均一強度が得られる。
- ・**注入範囲外の逸走阻止**
可塑状固結状態を維持するため、限定注入が可能である。
- ・**高度の安全性**
環境面に配慮した安全性の高い原材料を用いている。

適用対象

- ・**湧水、溜水、流動水箇所での裏込め注入**
トンネルの補修・改修工事、深礎杭など
- ・**水に接する部分にあたる空洞充填**
河川構造物・港湾構造物・既設構造物と地盤との境界面、密閉された管内の充填、廃坑の充填など
- ・**限定注入が要求される注入または充填など**
- ・**過重負荷の低減を要求される場合の充填**

工法

1. A液とB液を個別に調合する。
 2. A液とB液を注入口で合流させ、得られた可塑状グラウトを空洞内に注入する。
- ※A液とB液の配合は、約25：1の比例注入を行うので、特殊ミキシングユニットと機能の異なる2台の注入ポンプを用いる。



- ・「品質管理」は次の項目について実施する。
A液：①生比重 ②空気量
A液+B液：①フロー値 ②一軸圧縮強度